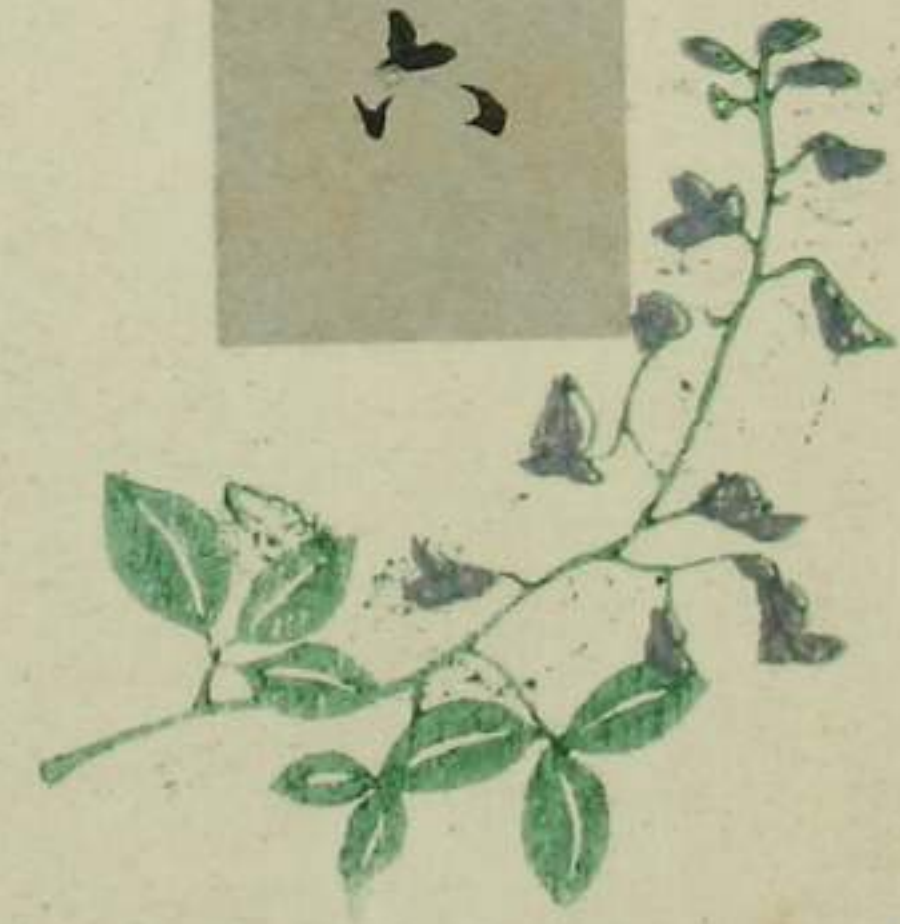




八
江
新
名
所
圖
畫

六



ル 4
3643
6



門 4
號 3643
卷 6

八江菽名所圖画六之卷

目錄冬之部完

廣嚴寺 同圖 諏訪明神社 同圖 松本大橋 同圖
 扇の芝 明安寺 下津江落雁 同畵 長慶寺 城ヶ腰
 船津 松本鑄物司圖 鶴江夕照圖 阿胡海 加利島
 音聲寺 同圖 神明社 荒神社 菊江夕照 千本松
 香川津弁天社 小畑 茶碗屋圖 雅樂殿川 同圖
 疫神 荒神相社 白山權現社 同圖 勝屋權現舊地 妙見社
 永照寺 觀音堂 同畵 越濱明神社 同圖

昭和廿三年
二月三日
購求

已上目錄參拾八條

八江菽名所圖画六之卷

八江菽名所圖画六之卷

冬之部

木梨恒充 著述
山縣篤藏 補正

華園山廣嚴禪寺

松本上市一里塚の所より

當所を
花園の

市も
り

天台宗の禪刹として本尊釈迦如来ハ行基菩薩の

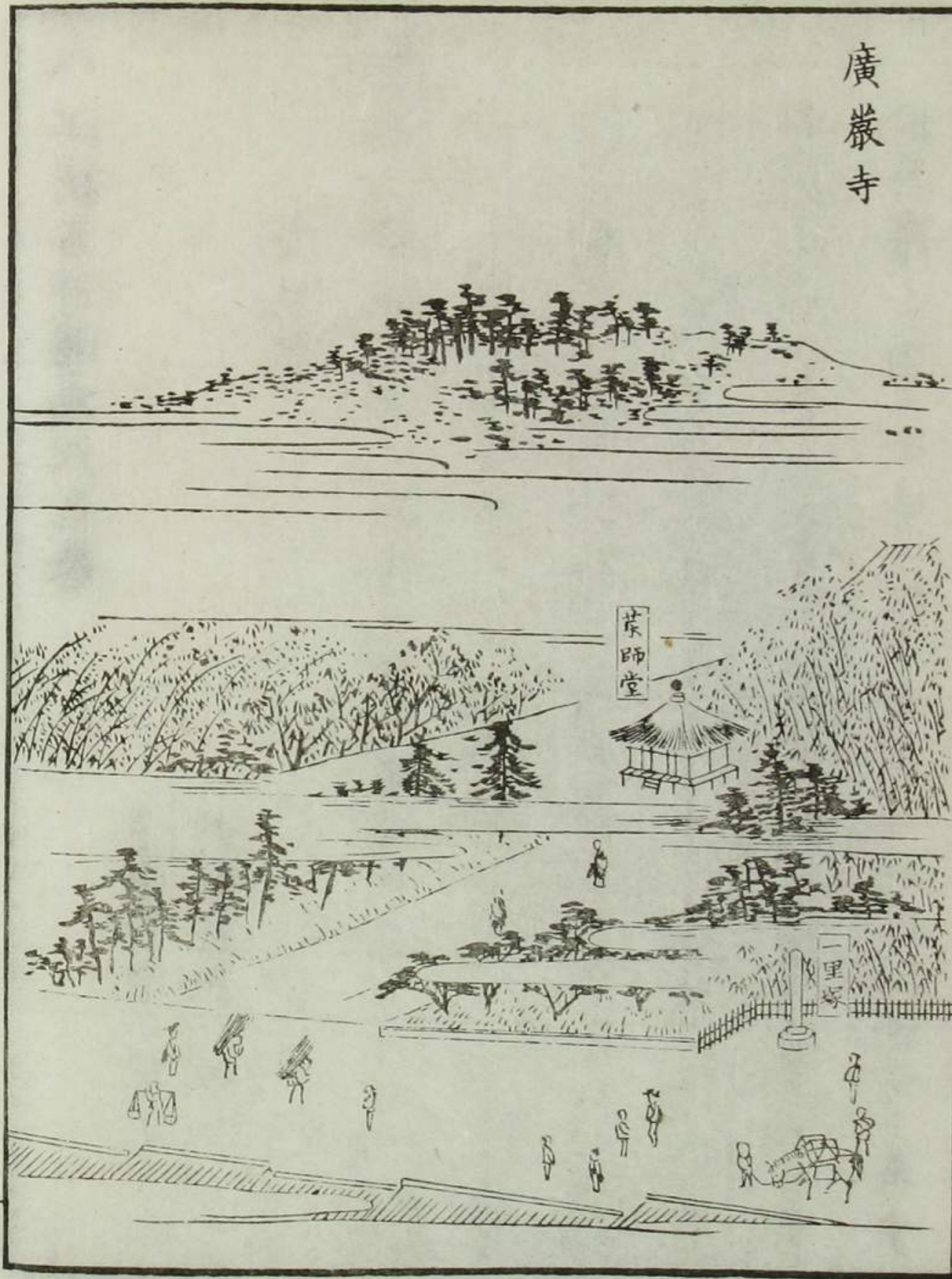
作中興を一天大佐和尚と号す舊古人皇百二代後花

園院の御代永享年間の草創として花園山安養寺と

勅額を賜り古刹なりと云其後荒廢し慶長の中

比再建して今の寺号に改む猶改宗近頃海潮寺に属す

廣叢寺



二和延巨指岸

薬師堂

本堂の前右より本尊薬師佛聖武天皇天平年中の建立
ありといひ傳ふ堂宇ハ永享の比よりして今も連綿あり

諏訪大明神社

同所市の中程山の半よりありて二丁餘

石壇を上る當社ハ天正年間吉見大藏大輔正頼再
興する所よりて其創始詳々るに初め社地松本諏
訪谷に在り依て今猶此名を稱す後寶永年中今の
所へ迂り奉る

傳ふ曰往昔欽明帝三十年正月長州阿武郡椿郷の
南に當りて夜ふく光氣ありて四方を照す陰陽頭ト
部等之を占卜して神の奇瑞ありといふると其頃此

二和延巨指岸

諏訪大明神
社

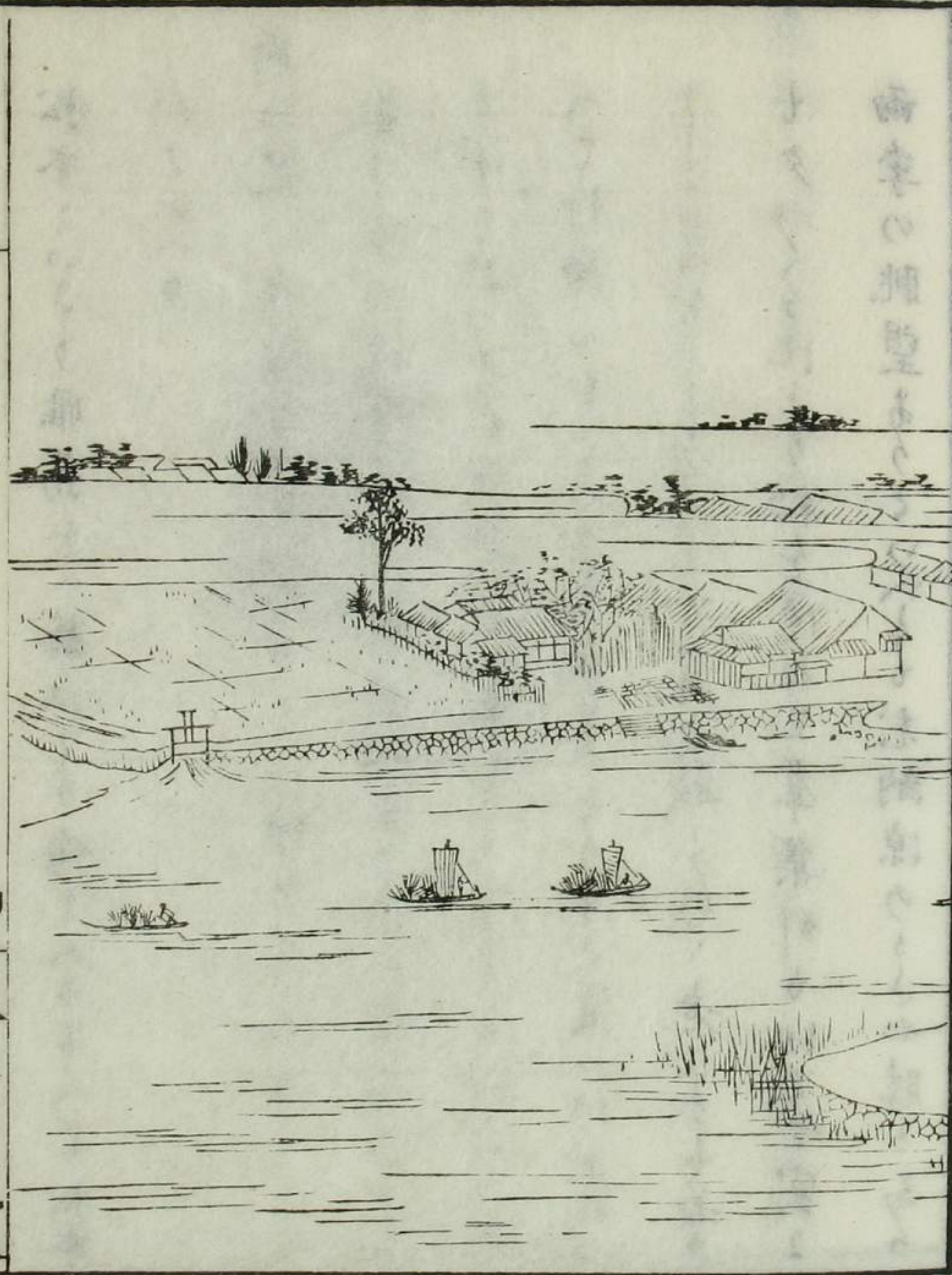


三
大
江
屋
成
反

郷の民屋一十才の女子狂癪の如くして詈りし我の
 信州諏訪の神靈たり此地名木多かれ我垂跡して
 長く國民を撫育せんといひて即ち酔のさめくも疾
 平癒しつらり郡司此事を聞て大きに恐歎し即ち
 一叢祠を建て諏訪大明神と崇め尊みたりと

松本大橋 同所中島より扇の芝に架す長三十六間
 鯉鱗橋もこの六々橋を呼ぶ元禄十二年初て是
 を架す初めはまきの反もあつりといへり川筋ハ
 橋本川に同一川上太甲灣より分派して中津江より

三
大
江
屋
成
反



四
大
橋
松
本
大
橋



松
本
大
橋

平
藤
一
本
橋
長
一
町
餘
許
許
州
新
橋
の
柳
の
舟
是
上

大
橋

上
芝

下
芝

橋

三
手
交
后
非
崖

六

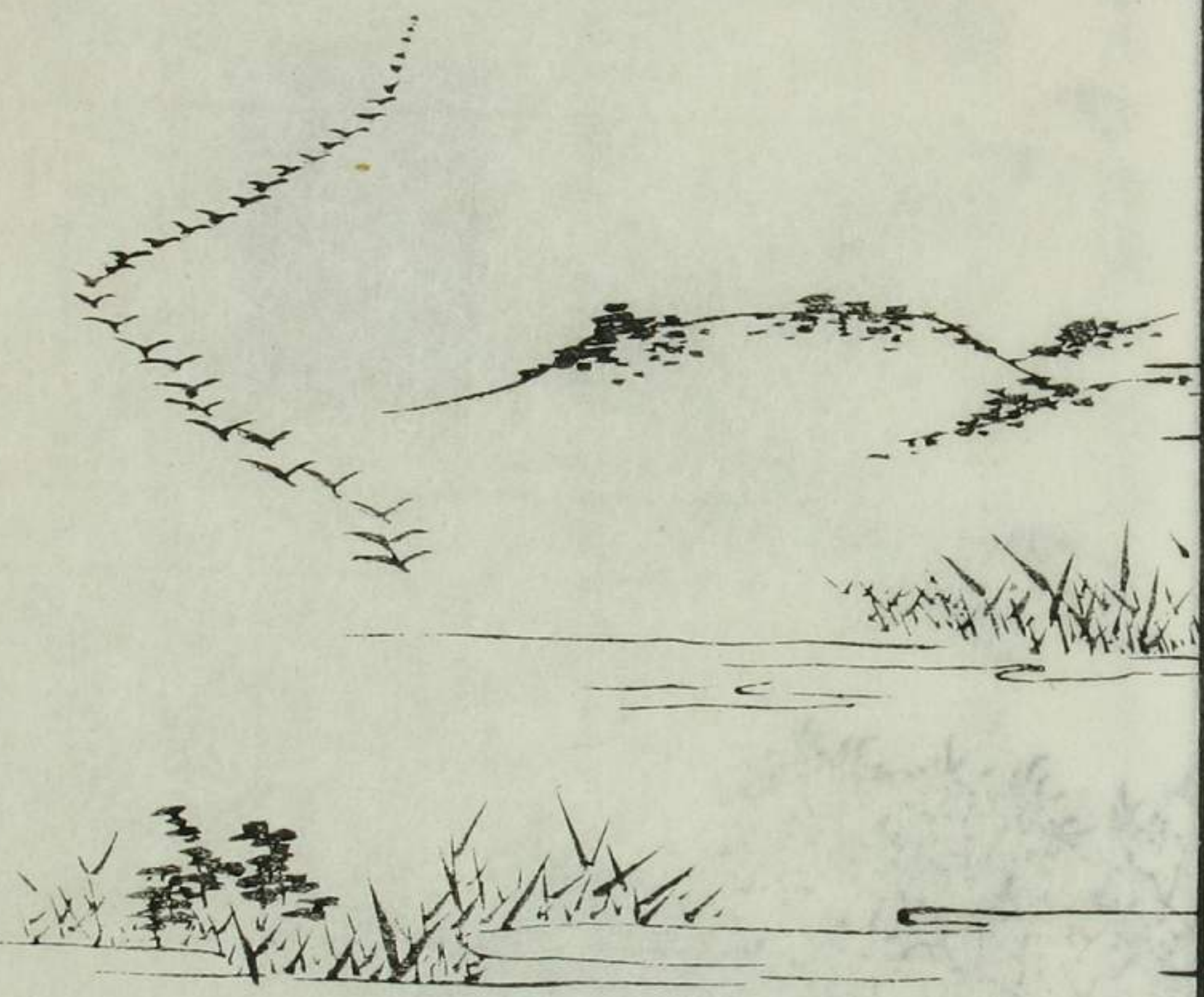
松本より雁島をへ鶴江より海へ入るとへて松本
川といへり

扇の芝 扇形を以て号とに曠々たる平原にして
數千歩の浅茅生ちり殊更彌生の空に青陽ある比
もすこれつれ咲つけの野をなつて袖ありは
へて行歸るをよめ子も多かりたり夏は川上より
一と暑をよめんとて貴と賤とぬく老るるも若き
も夕つくる比より袖を連ねて羣集引も切らず実
雨季の眺望ありとよとも尤納涼のよめ勝るあり

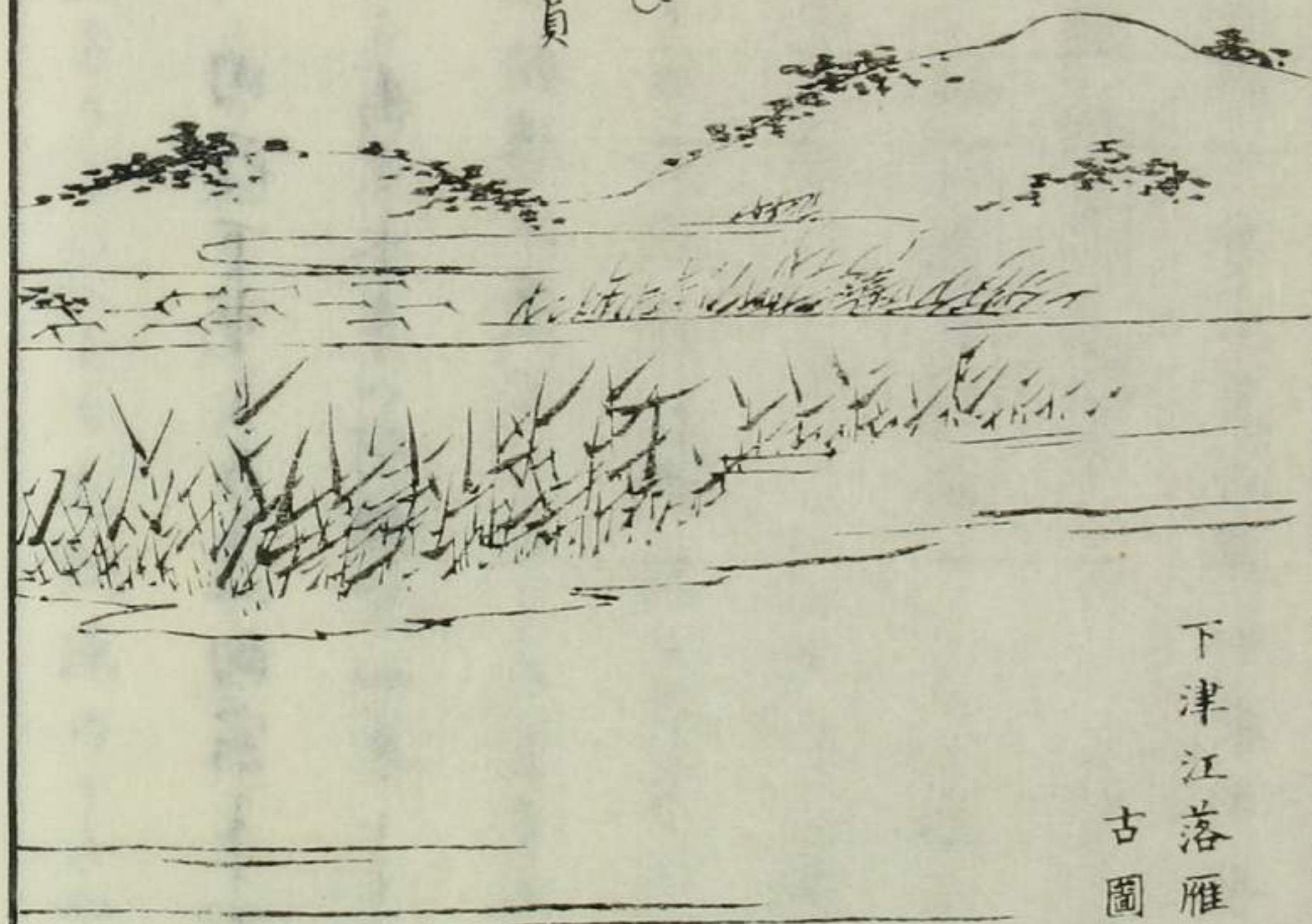
扇

東谷山明安寺 同所下市あり一向宗にして厚狭郡
吉部常光寺に属す本尊ハ阿彌陀如来にして開山を
釋道甫といふ相傳ハ慶長のよめ關東の浪人林
筑後といふもの石州津和野村にて學問の師範と
ありて竟る吉見廣行に属して羽鳥作兵衛と号し一
家の幸臣となり後吉見家没落せしより終に法比とち
におりしち雜髪して道甫と号し一字の精舎をい
とぬみ、真言宗を學ぶ其以降阿武郡福井村に遷

旅雁秋高
 停未征
 一汀水氣
 接天晴
 向渠綠底
 謾來去
 不耐寒江
 万里情
 原欽



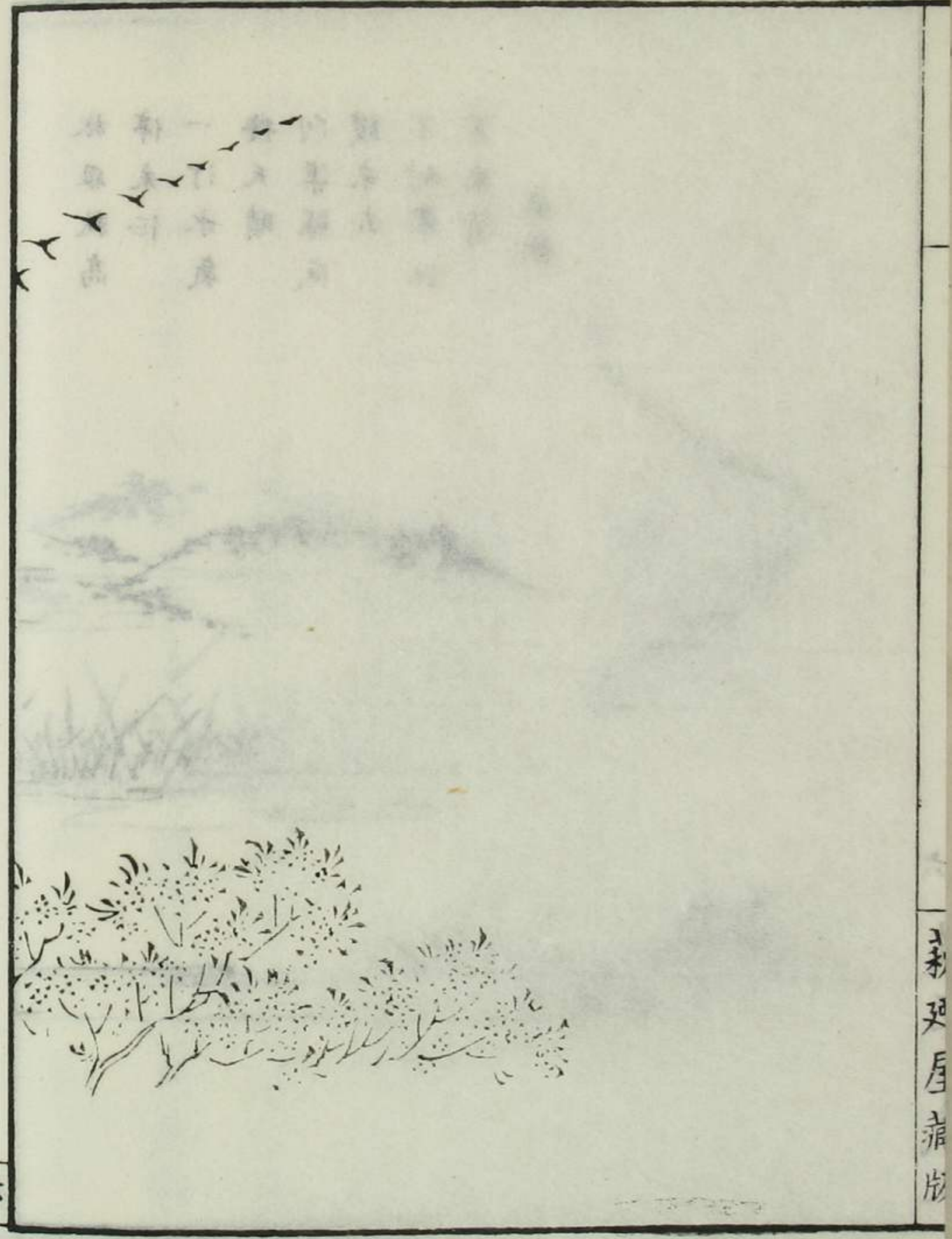
春貞
 ねつ
 かつ
 けつ
 り
 あり
 ほの
 と
 り
 の
 の



下津江落雁
 古圖



七
上
火
地
屋
藏
板



三
秋
野
景
圖

六

りて一向宗に改むつひに承應のころに當所土地を賜ふて本堂を建立せりといひり

下津江落雁 八重葎八勝の一として風光さめり画

園に異あり

旅雁秋高停未征一汀水氣接天晴問渠綠底
護來去不耐寒江萬里情 原欽

あゆみの入江の芦此けのくとわらるるをよりあふるひ春貞

吉祥山長慶寺 宇田原より黄檗派の禪宗として

東光寺に属す本尊に聖觀音を安して開山の囑宗

元綱和尚といふ相傳は始大島郡屋代邑にありて長慶菴といひを正徳元年唐樋町々人中村源兵衛といふもの開基せり所ありといひり

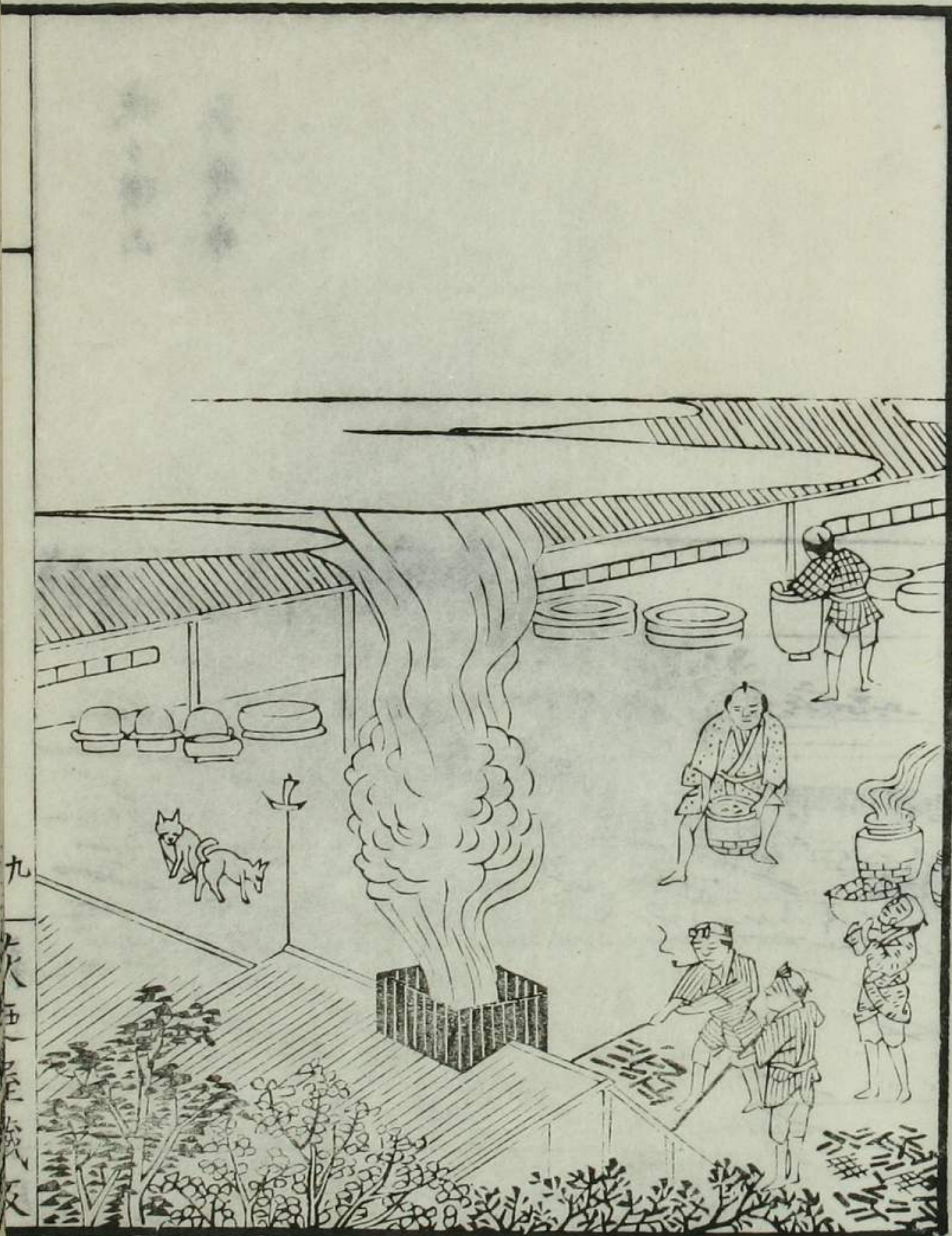
城カ腰舊跡 同所の上北山をいふむろに尼子の家臣松

倉伊賀守の城跡ありと土民のいひ傳ふ所あり

屋氏下屋敷の上は小森ありてうら石の昔むらあり是を伊賀守墳墓といひ傳ふ萩田といふ文に早乙女といひつまゝうらり馬手ハ松くら伊賀守むらり
一の城のいひかや云々

船津 中島新道より人家といふ処を今も船津といふに

往古ハ此ありりての沼田よりて濟口より此船通ふ



九
 大
 五
 一
 五
 八
 八
 八



松本河原
 鑄物司
 郡司氏は預り掌り

大
 五
 一
 五
 八
 八
 八

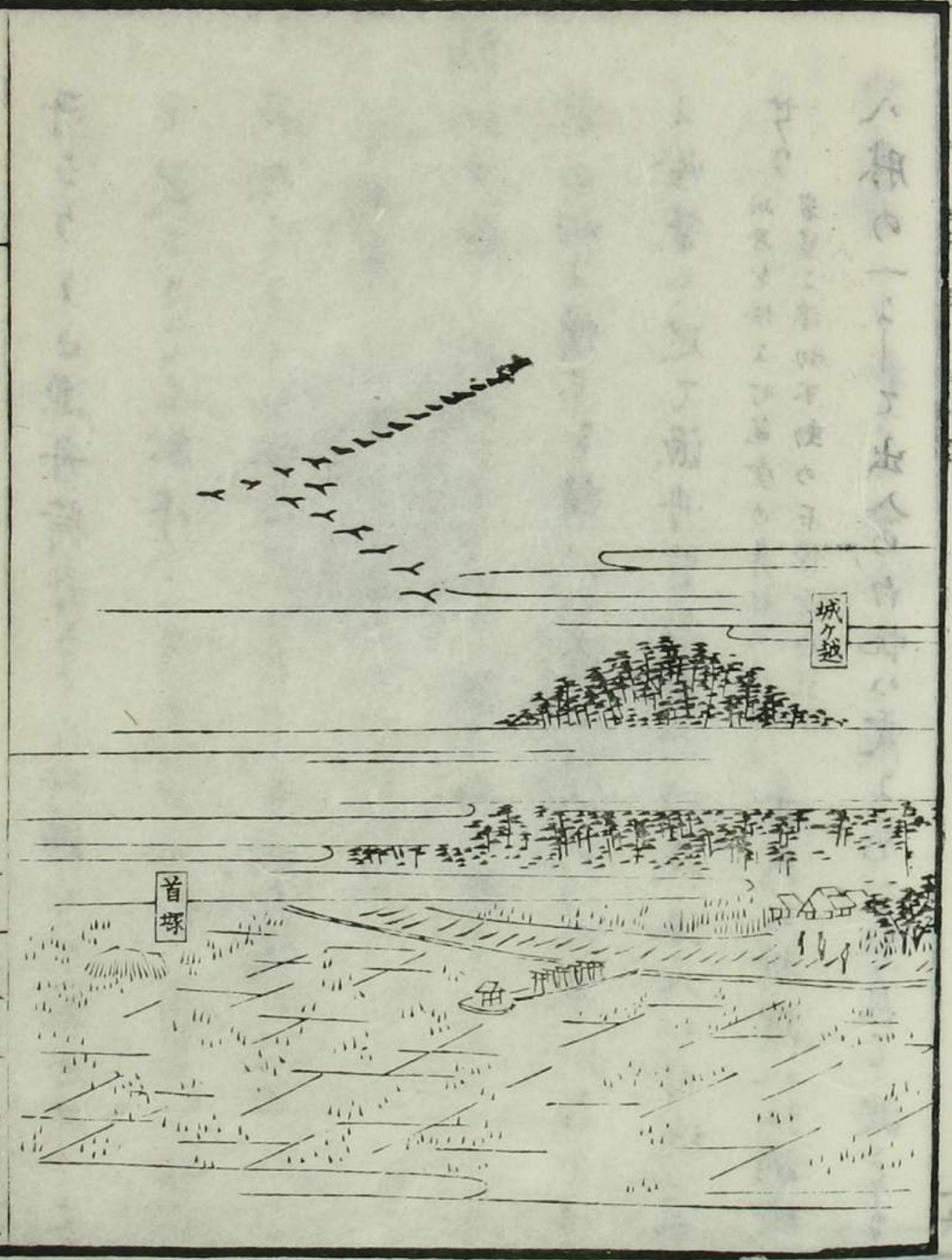
大
 五
 一
 五
 八
 八
 八

城ヶ腰山
長慶寺



新刊 日本書紀

八相の... 出...



十 大正 皇 統 記

河よりまよ漁舟荷舟さくも行歸りて繁昌せしと
そいふまよと船津と号をつけたりん當所は松村
長介といふもの住居せりて今も猶松村開作と
いふ或書は云昔は湖水の入口といへり

鶴江夕照 同所より川を隔て向ふ都て此ありより

前小畑は續くを鶴江の臺といふ又西の鼻浪打ぎは
燈籠を建て漁舟買船風雨暗夜湊入の目途とふ
せり 此所を俗に燈籠堂の鼻打といふまよ
岩窟に浪切不動の石像を安置す 當所の所謂八江瀨城
八勝の一として出入の白帆の霞を見えかかれて波より

欺き篝々海士小舟の沖に連ちりて短夜の明ると
細引もろ小船の霧中行歸りて朝より夕とい
く降るく白雪の島山に雲のかうくと疑くれて實
は四時の風光さめく画中の髣髴なり

斜陽宜曬網 一半鶴江紅

島影委浪水 寒潮湧遠空 原欽

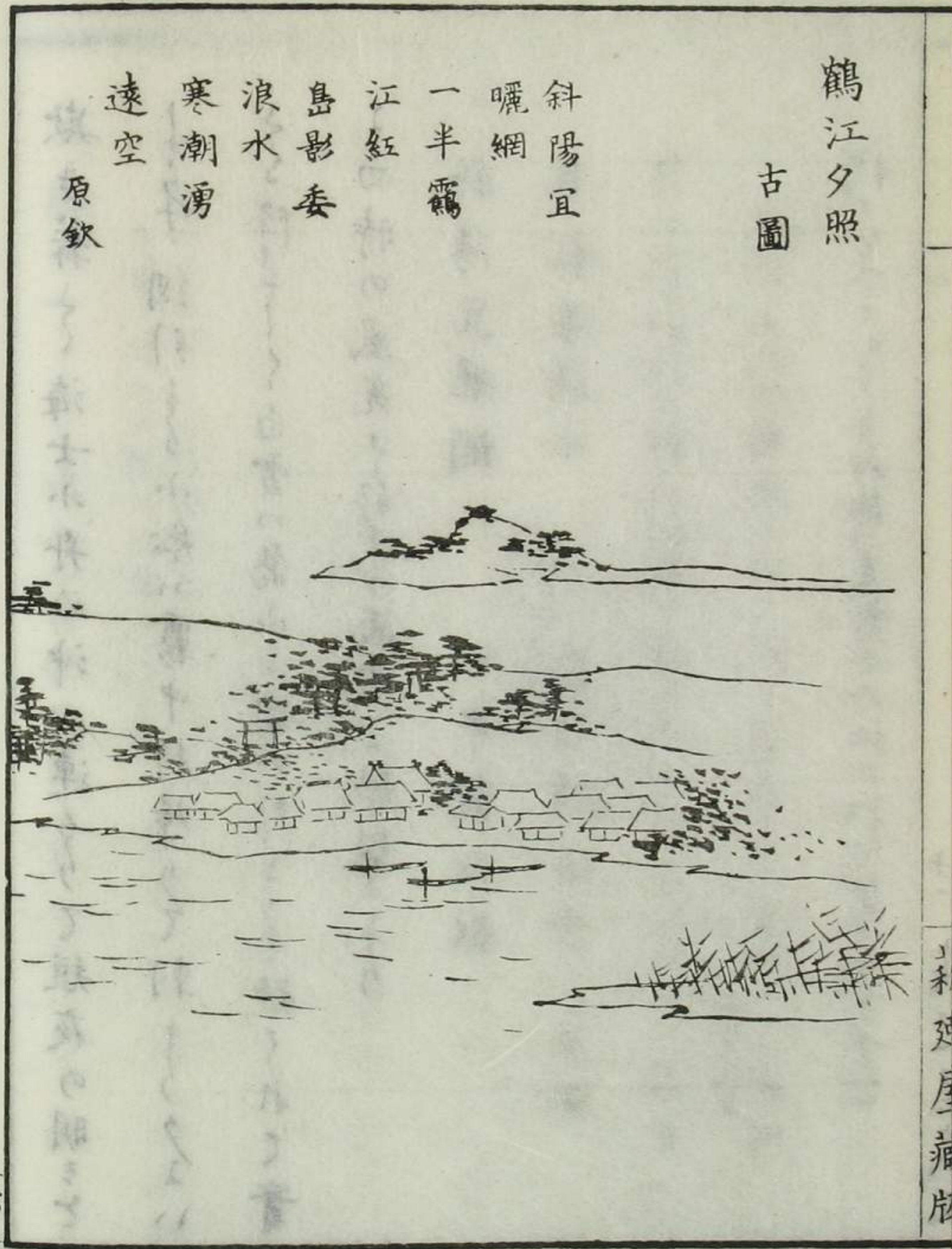
訪のころははの村乃松あり訪る夕日のれをさやけき春夜

遊乃上人四國遊化のこけり當所は清浄光寺 其阿

代をへかきぬ袖は友語の入江の松をたどりてすむ

鶴江夕照
古圖

斜陽宜
曬網
一半靄
江紅
島影委
浪水
寒潮湧
遠空

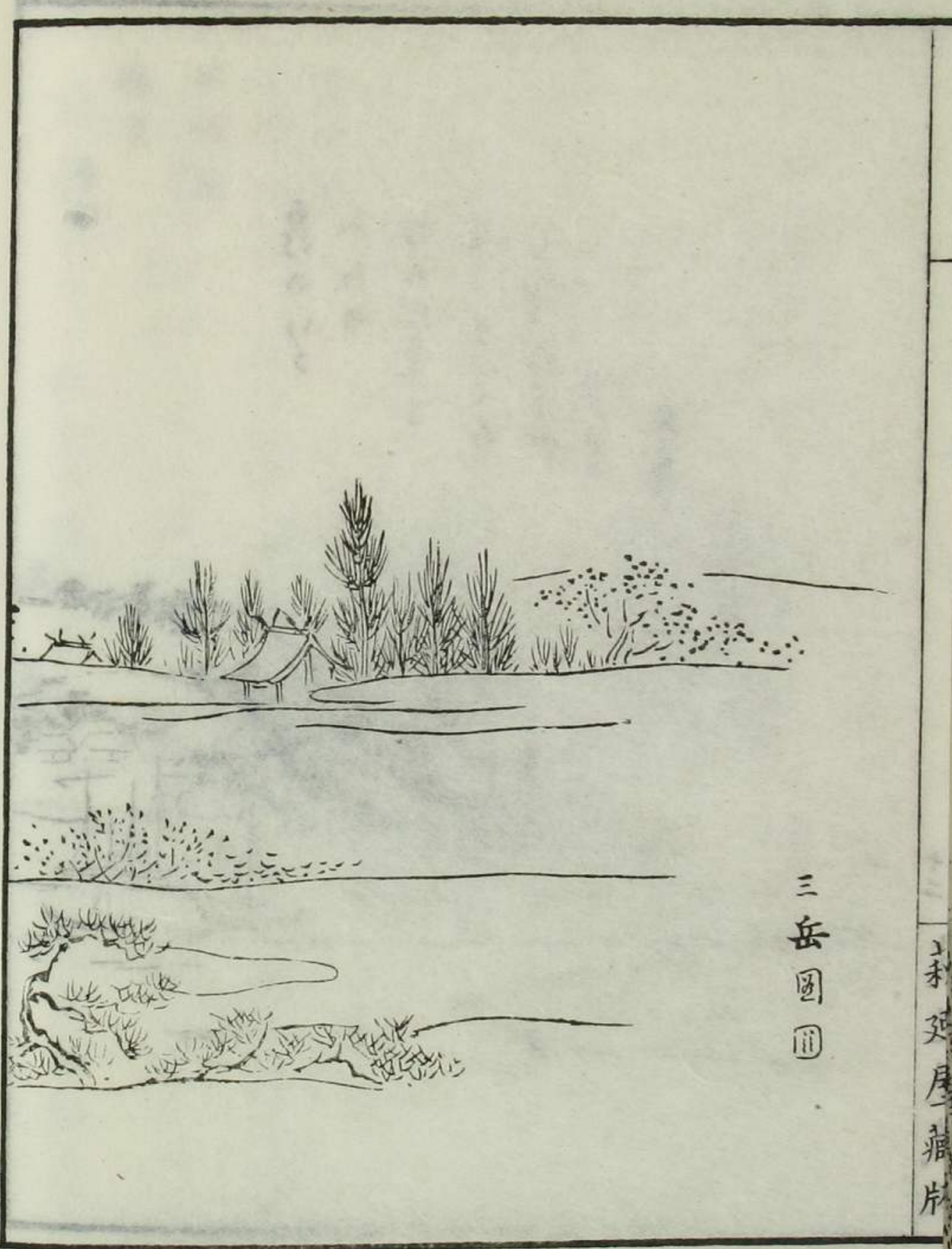
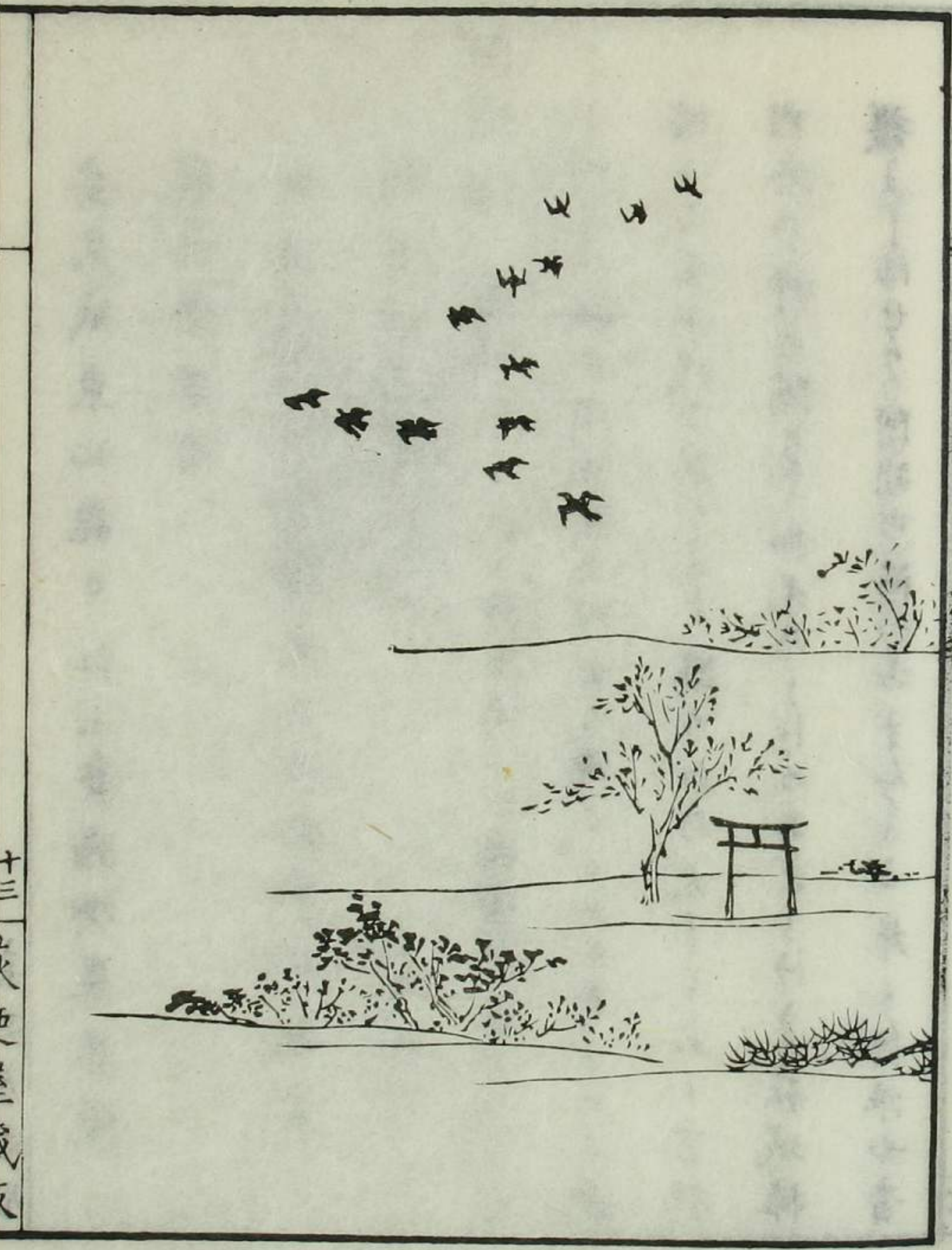


秋屋藏版

露のり
入江の
村の松系
夕のさや
春貞



十二
秋屋藏版



三
岳
圖
四

安武城東北巍々江上臺隔街塵界遠
觀世佛堂開

長海連三越高陵望九坂松風飄鶴翼

將有羽人來

山根南溟

阿胡海

當地たゞしれり所を志しに幽齋丹波日記より

小畑より瀬戸崎の間は阿古の浦とよめる哥あり又萩
回りよ云千代よ羽をのす鶴の江乃太く立一宮柱
内外の神の隔さく和光乃くけのあきうけき萩城擁
護まはせり阿胡の海つらまんと岸は浪や音

聲寺云々と見ゆ又阿胡海ハ今當郡奈古村の海を
りふと防長名所雜記よりせり實所なりと云ふとこれと
も古よりいひ來れハ因ふよりてらに知一つ

丹波日記あこけうら浪の音くまこくたれハ

小つみれよりよあくあそをらんおききしはの浦浪 幽齋
八雲御抄

時は風はまきあふたあこの海のたけ乃ハ海よふ藤州これ

万葉十三

處女等之麻笥垂有績麻成長門之浦丹朝奈祇尔
滿來鹽之夕奈祇尔依來浪乃彼鹽乃伊夜益外二

彼浪乃伊夜敷布二吾妹子爾戀乍來者阿胡之
海之荒磯之於二濱菜採海部處女等纓有領巾
文光蟹手二卷流玉毛湯良羅尔白栲乃袖振所
見津相思羅霜

阿胡乃海之荒磯之上之小浪吾戀者息時毛無
安古乃宇良尔布奈能里須良牟乎等女良我安
可毛乃須素尔之保美都良武賀

防長名所雜記

阿胡 浦海 八雲御抄云浦あこの長万海あこの長万

天

あまけ
のしほ 阿胡ハ名寄藻鹽草等の諸抄ニ同一長門
浦ニ引續テ北の方ヨリ浦の村家を阿胡村といふ
國中ニハ奈古と称スリ藻鹽草ニ曰あこの浦と
いふもあこの海ニおかしことあり

杳渺阿胡海 華韓水脉 匯鯨噴千里浪
鵬擊一天颯

帶礪長相傳 滄桑尚未改 古來入國風
已使騷人采

南溟

加利島 加利嶋ハ鶴江臺をいふといひ又三島郡或ハ江崎の沖中ニある小島といふ或人曰今松本河原より千本松邊までの間をハ雁嶋といふれと是ハかこしきを謬りてかんどはといふちるハ一是又奇説とすハ一

防長名所雜記

加利島ハ俗にカレ島と云り江崎といふ沖ニありこれより石見の海ニ續く所なり云々

丹波日記云昔法印細川幽齋とくくして長門の國より磯のうへへゆくを見し

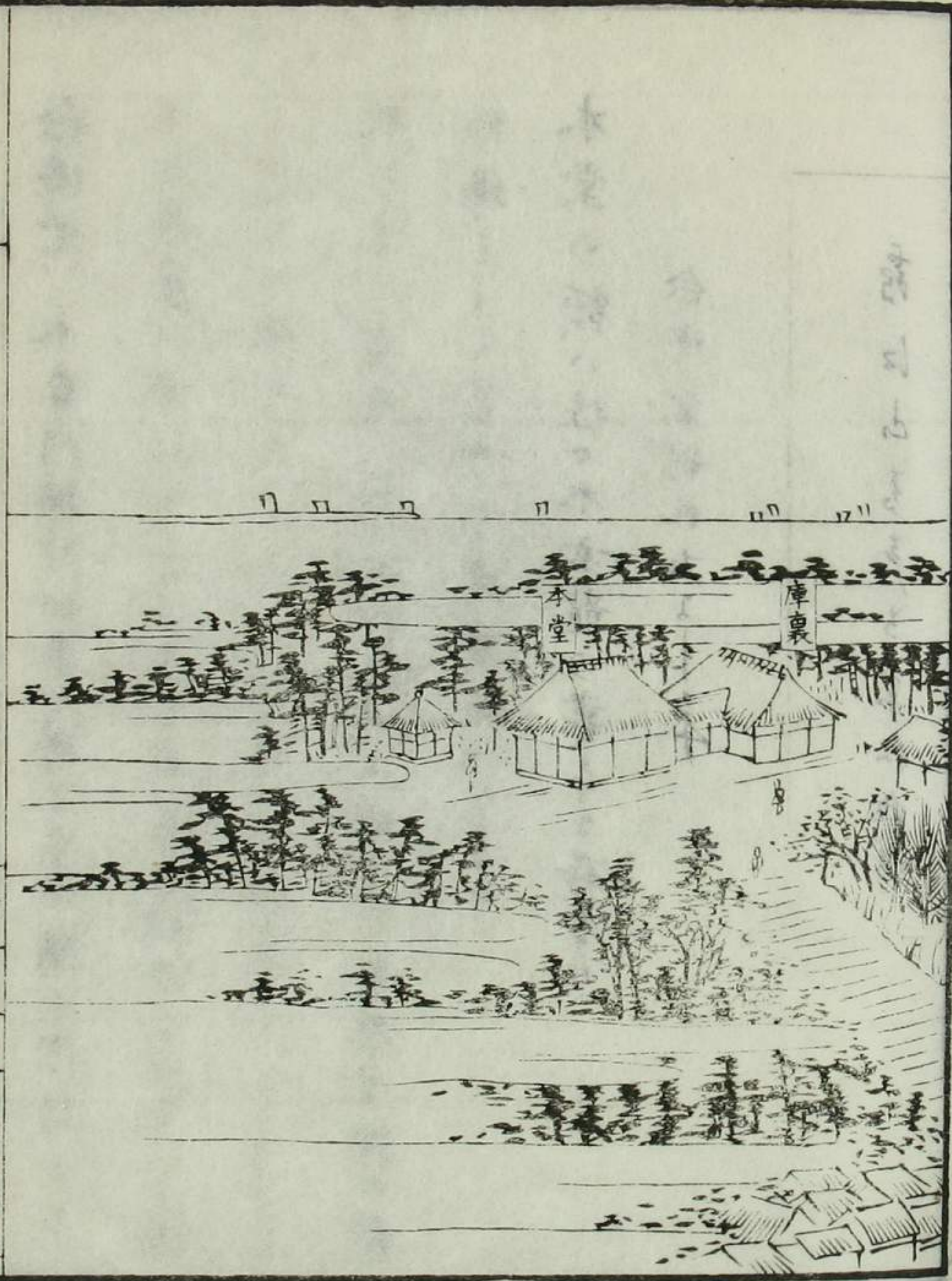
して行ヌかりハといふところあるときくたれも世の無常なることをおひひ出て

みかんの余らうとく頼めども世ハかり島の浪のうらた此齋

豫臨卒

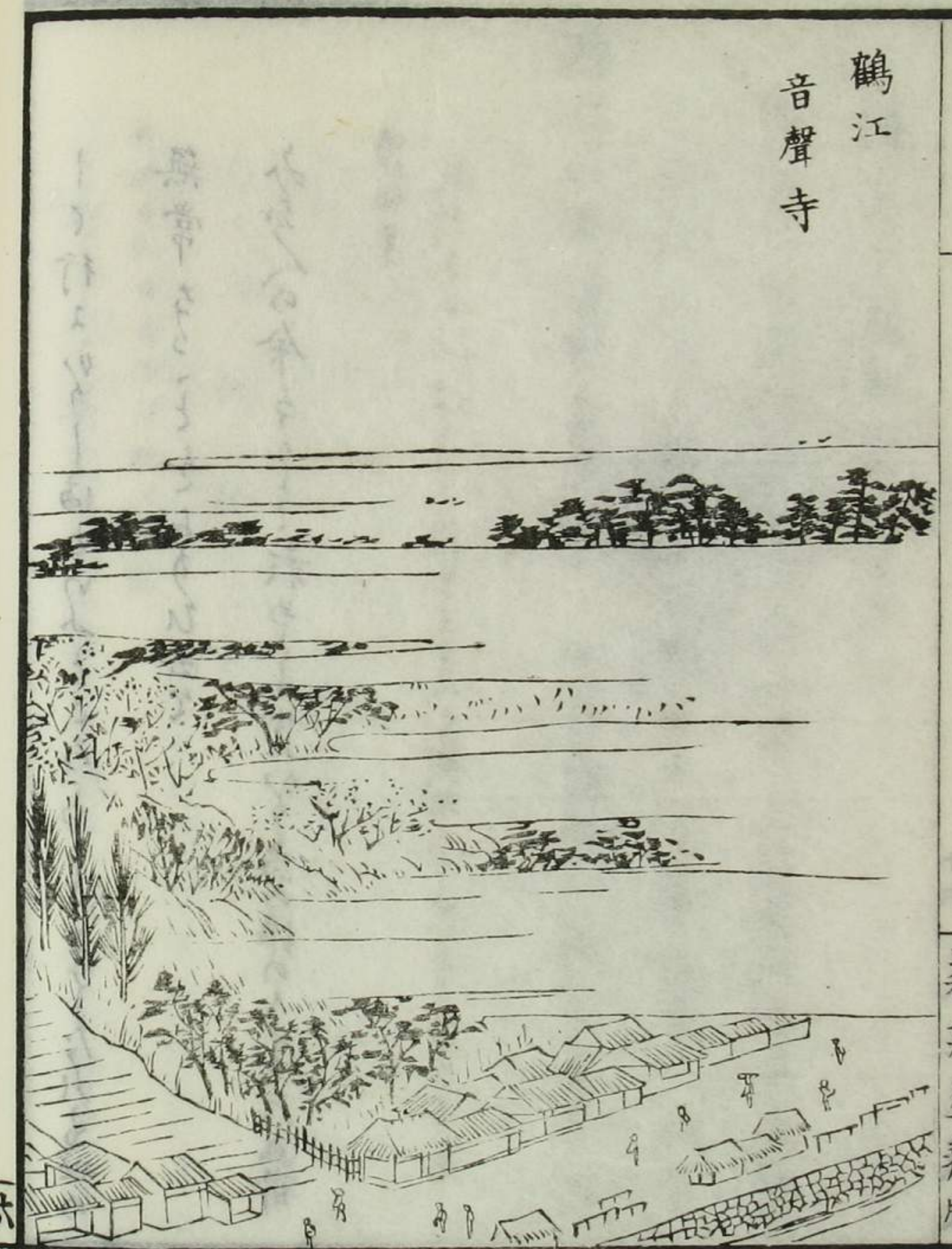
長門なる沖はうら海をきて我らみかんの世をうら

鶴江山常念佛音聲寺 同所臺川ニ臨みてあり 修多羅院と号す鎮西派の浄土にて常念寺ニ属す 開山の念蓮社宗譽曆雲和尚といふ寛文九年の州創りて萩五山の一なり



十七
 坂
 屋
 藏
 坂

鶴江
 音聲寺



六

二
 和
 其
 屋
 藏
 片

念佛堂 本尊阿彌陀如来ハ佛工安阿彌の作脇士二
十五菩薩ハ佛師宗印の作り所より相傳ふ始善芳院
と云らる破却すおひて後當所へ再建——今の号は
改むまゝ當所ハ御城の鬼門の地とて鬼魅守護の念
佛場として當寺を建置給へりとぞ
本堂の額ハ佐々木玄龍の書らる所あり

念佛堂制札左より

新編 歴史 新編
新編 歴史 新編
新編 歴史 新編
新編 歴史 新編

系譜ハ陸奥衆ノ作法ナリ

元禄十一年

六月十五日

志ノ

観音堂

本堂の左よりあり本尊正観音聖徳太子御作脇士宗師如来太子安
観音の二尊ハ弘法の作り又當堂ハ七観音の一として第六

番目

神明社 同所東より有り石壇三四丁を登る

祭神 天照皇太神豊受皇太神大歳神

縁起 一曰むく一此境ハ陰暗の地として氣候順ちうす

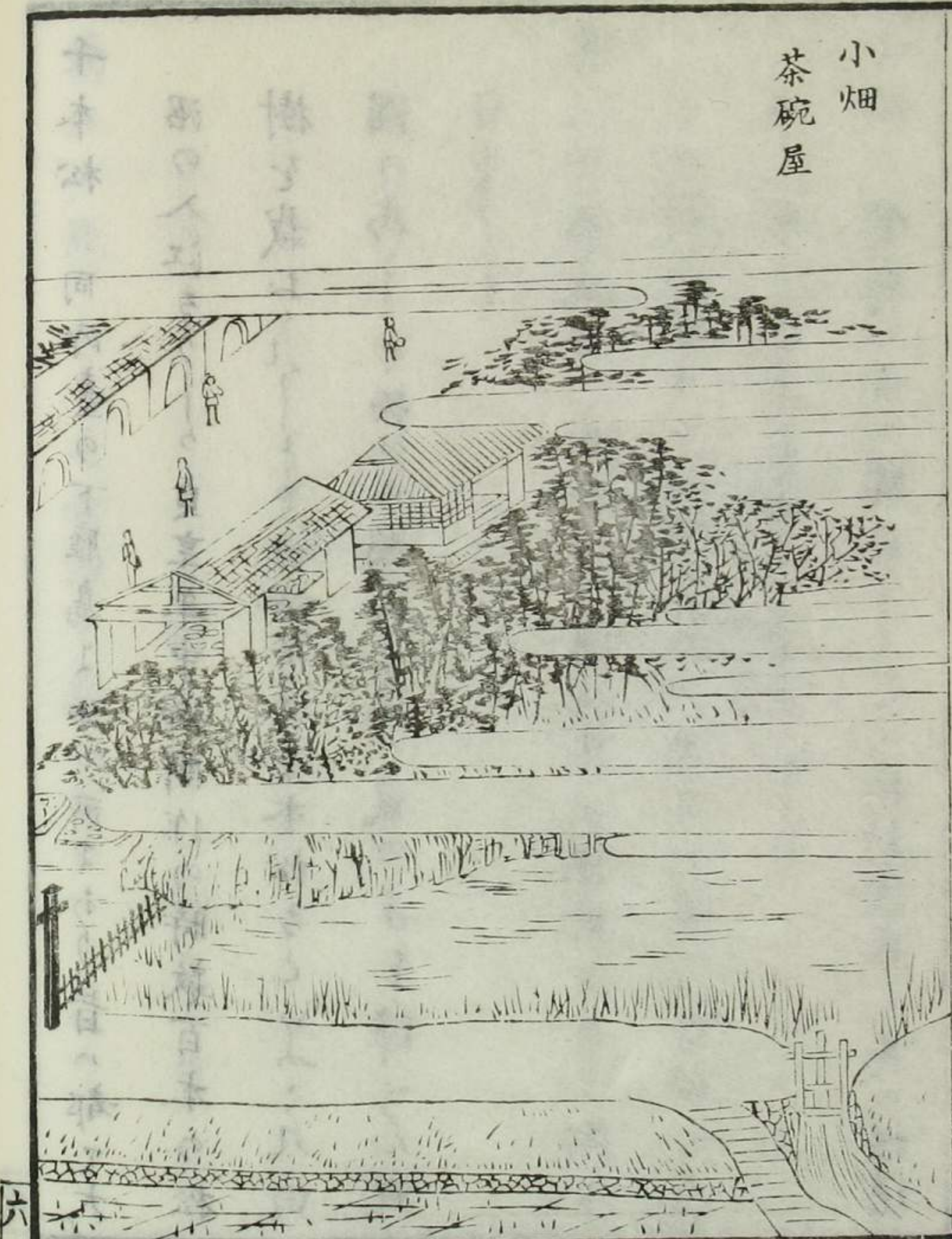
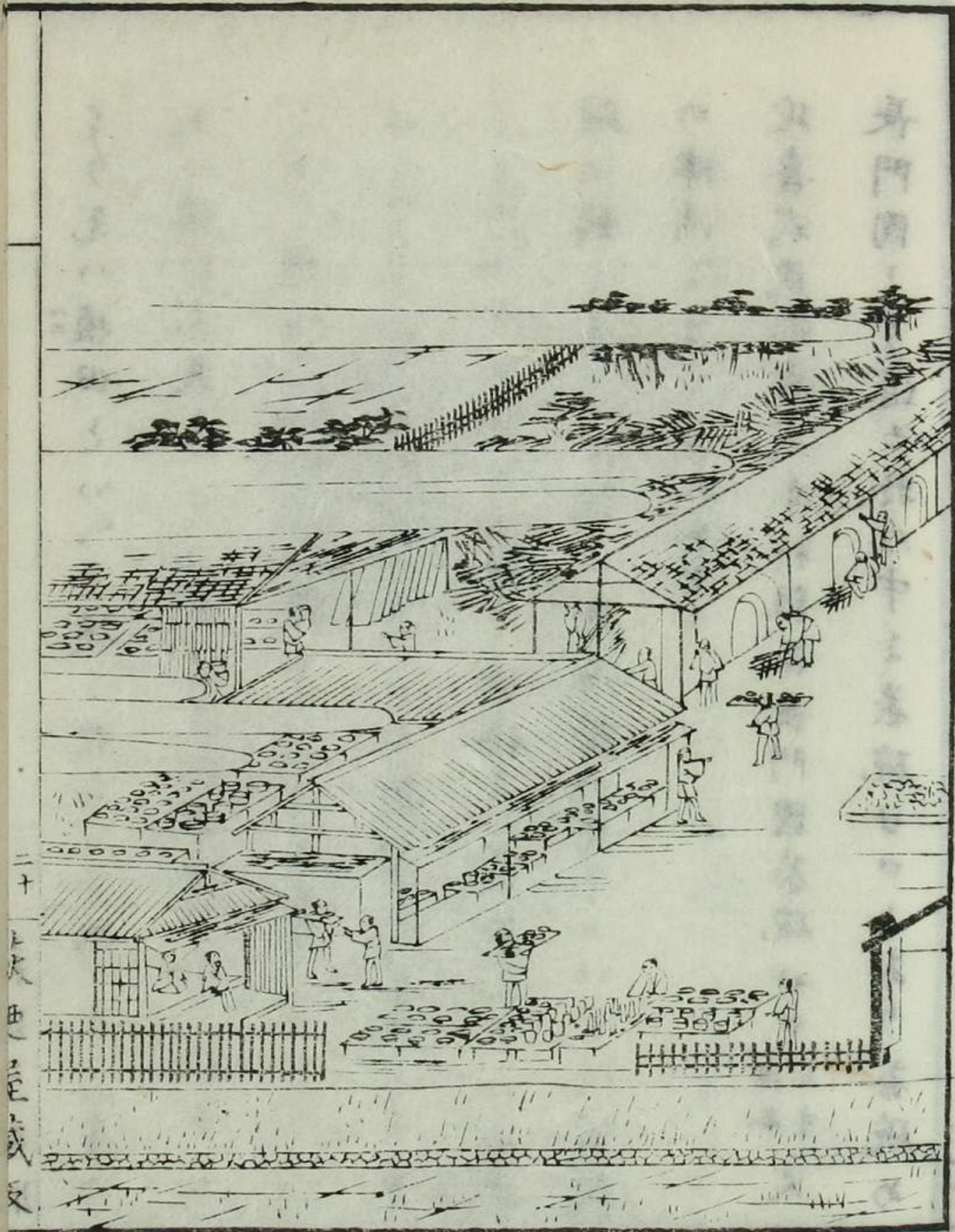
あらし上ニ漢賊動もそれハ當所ニ着船して人をあや
まち傷ふこと多くいひて悪むべき事なり一曰神や
はくれむいん延長年中のことなり一曰御神降臨
しむひて此地を守護せしと告玉ひぬ云々今の三社
是あり

荒神社 同所より二丁程東ニあり當社ハ菘荒神
四宮の一あり古老物語ニ曰當社ハ阿武郡中第一
の古跡にして四方の荒神是より分神せり云々
菘江夕照 いみへ當所を菘八景の一と云り

千本松 同所臺の下雁島ニあり所ニあり昔ハ都て大
沼の入江なり一曰貞享年中御開作の時數百本の松
樹を栽おれり一とそ世俗号て千本松と云ふれ田
圃の爲りて西北の潮ふきほく風の子を障らん設
けり云々

香川津辨天社 同所より東北香川津村ニあり側ニ
小畑村ニ孝子の石碑ありニ孝子の事ハ世俗の人
口ニ残りてその名高しよりて記さる

小畑 當所ハ古へ驛舎よりて三位村往来人馬の継場



小畑
茶碗屋

二十
大
色
成
反

六

茶
碗
屋
新
片

たり元ハ埴田と云り後ニ改めて小畑とす名産の
瓜ハ味ハ尤美にして上品とす又當地ハ土の佳き所
にして埴田と云るも是より知るるありと云るは
みへより陶器を造り出し今猶製造家所ニ多
しその山を天長山と号く世俗ニハ茶碗山と云ふ茶
碗皿類を専らニ製し御兩國ハ更ニ其の諸國
の津浦ニ多く作り出せり

延喜式民部省式年料雜器長門國茶碗廿口徑各五寸又
長門國より進る物の中ニ茶碗廿口とあり茶碗六

つとと玉勝間ニ見えたり

防長名所雜記

埴田驛 波多ハ椿郷の内ニあり萩城より一里あり
己良の方ニあり

延喜式印本

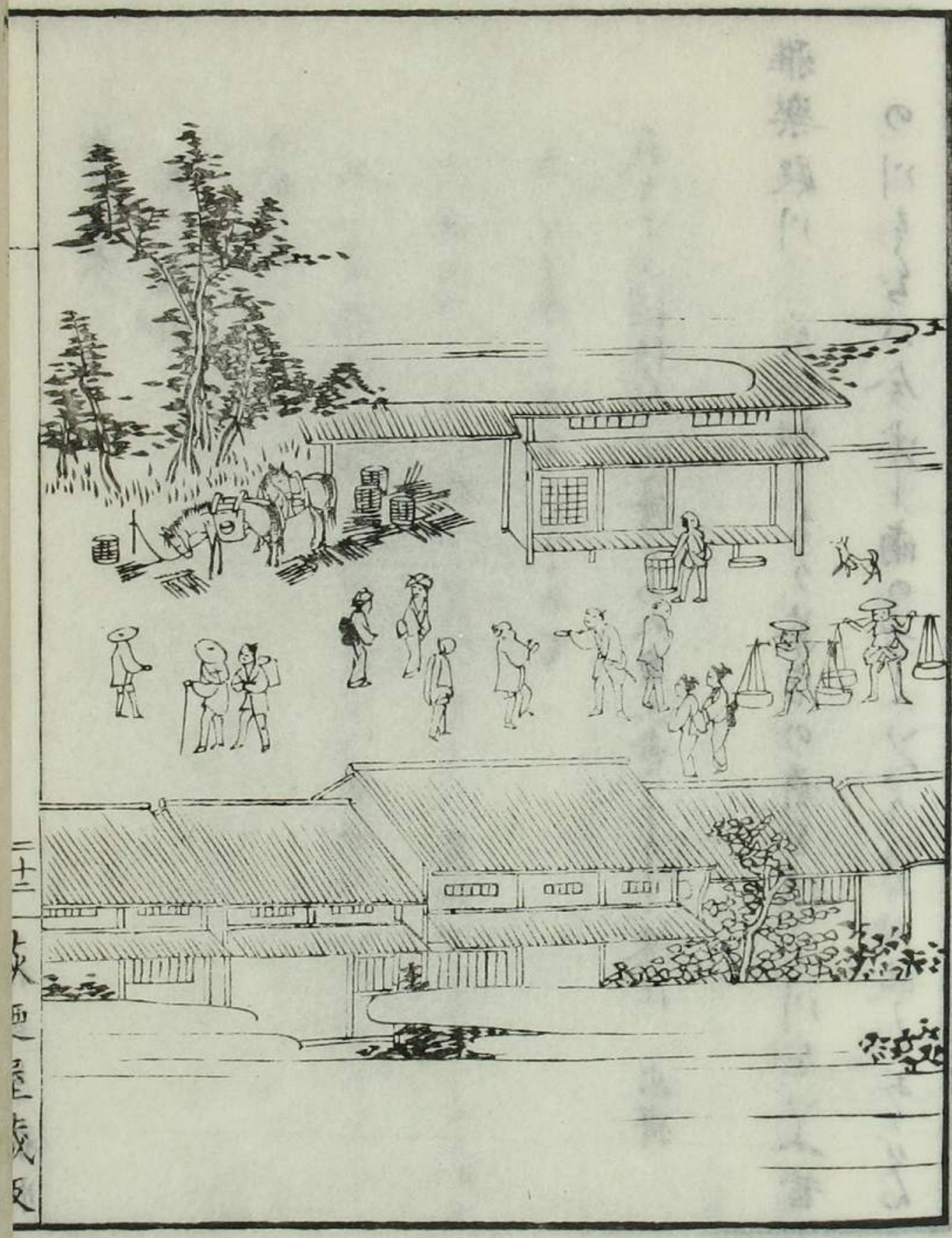
埴田とあるハ傳寫の謬りなり埴田を今國中ニ壑

田治田の字を用ふ

俗ニ小治田といへり畧して小畑の字をも用ゆ

此村の土地

埴たり故ニ埴田の名あるニや海のおくりにまきこ
村なり



十二
大西一色成天



雅樂殿川

六

家延屋藏成

兵部省式

長門埴田

丹波日記

同一き國浦小畑といふ所へ唐船のつきてありしを舟人のうち語りていふはさうい見物せんとてそのかゝ舟をよせてあるとてめて

我もさう浦付ひて漕ぐめぬ唐土舟のようし湊に 出齋

雅樂殿川 前小畑あり茶店の前を流る川をいふ昔の川もさういふ今少く南の方とすりつりのはさうありん

白山社の神主矢次雅樂といふ人毎朝此川をさうりて水打灌き垢離して白山の社へ詣てぬとを故に此名の残りといふ
矢次雅樂墓碑といひて今香川津長漆山あり又當町樽屋町人何某といへる者矢次氏の孫裔といひ傳ふるものあり

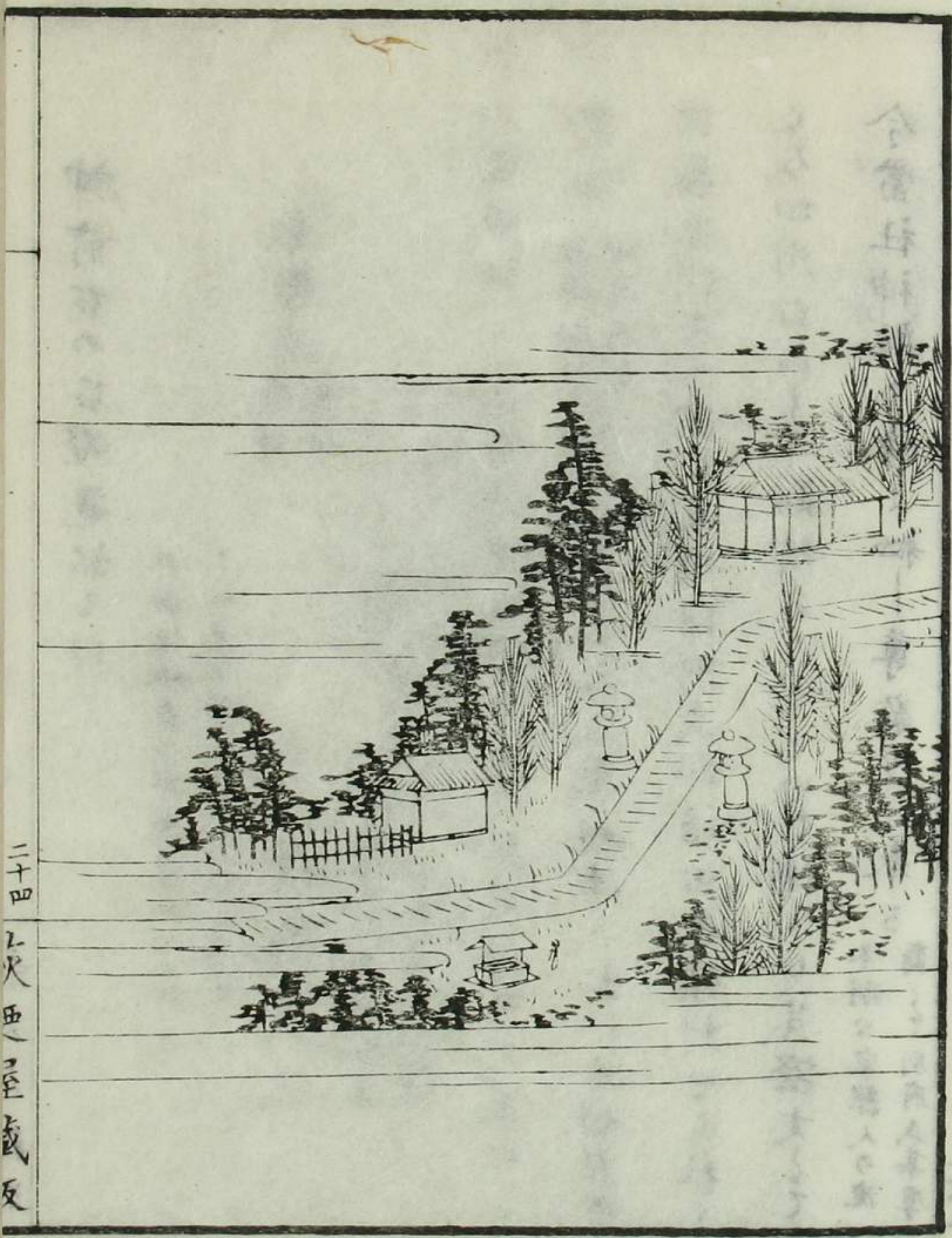
疫神 相社 同所往還より南の方耕田を隔て山の傍に

あり里民福光荒神と稱す
當所を福光村といふ又勝屋荒神といひたり勝を権現御相殺とす

土人の傳 祭神詳ならず棟札に云其祭始を考む天文年間

後根氏再興
今御舟藏付の者此氏の孫裔あり 于時明和年篁齋阪時保敬

撰もと書記せり



二十四
丁火
五
丁
蔵
反



白山社

三
丁
延
屋
蔵
反

六

神前右の石燈籠銘曰

再興後根壹岐守盛道天文廿四
乙卯至室曆四甲戌二月貳百年

奉寄進 疫神 荒神

諸願成就

盛道六代孫 後根長左衛門盛武
同 九郎右衛門盛勝

白山權現社 同所往還の左あり社司神田氏奉祀す

祭神 伊井詰尊 伊井冊尊 大己貴命以上三座相傳ふ弘仁年間左大

臣藤原朝臣冬嗣公長門國阿武郡埴田邑領封せられ

ころ加州白山より勸請ありしといひ傳へり其證文とて

今當社神躰の傍に秘し尊敬なり奉る 冬嗣公家隸人の流 喬とて別府氏某厚

東氏某の両家有
て當所に住居す

社寶 足利尊氏の矢 松倉伊賀守の矢 矢次雅

樂の鞍とを存す 或人口當社に古き太鼓ありしを秀元公高麗卿 陣の時陣太鼓に所用ひありしといふ

勝屋権現社舊地 茶碗山の下田中より繁茂し

る叢の中礎石の苔むらるありこの邊すて勝屋

といふ是舊地なり古記に曰貞觀年中勝屋某小畑浦

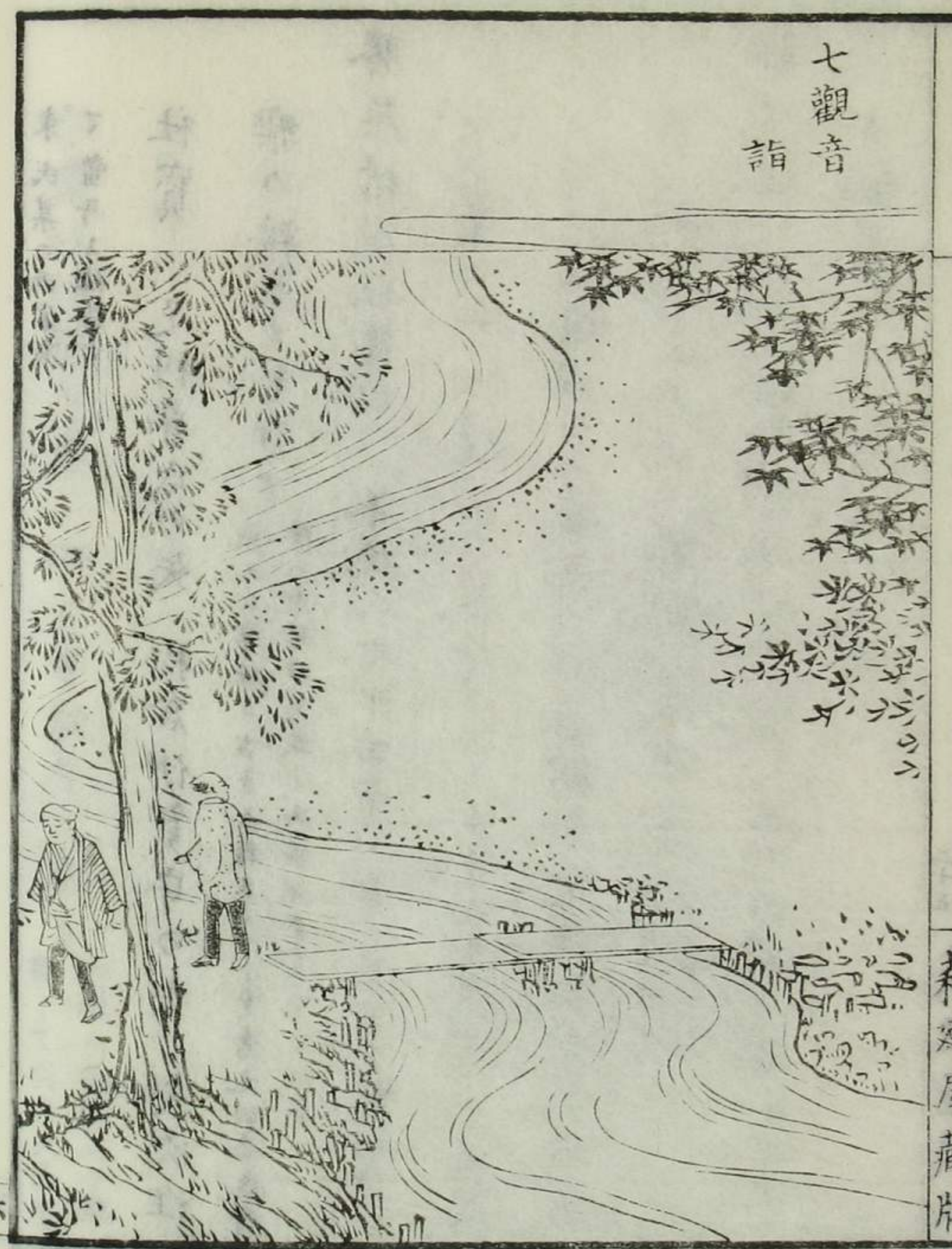
よて神体を拾得て勸請せりと 神体権現 といふと云銘あり

妙見社 中小畑烟硝藏の上の山あり石祠に安永年中

と記す



二十六
乙
巳
一
己
戌
反



七
觀
音
詣

未
遠
屋
藏
片

六

月峰山永照寺

同所踊場浦町の後あり一向宗

て京師本願寺に属す本尊に阿弥陀を安置す開山ハ

西瞻といふ相傳ハ永正年間筑州芦屋の里乃百姓吉

見家より縁ありてを以て菰より来り先指月山今御城山

麓四本松今浦といひて所より住居すといひ此の頻

りに佛門の心ありて終に薙髮して一字の草菴を結ひ

即て當地より移りて法名寺といふ一字を建立せり後長

福寺と改む今當地を今浦といふも四本松より来れり

舊名よりとららるへ近く京都本願寺より今

乃寺号を賜りぬといふ

浦小畑観音堂

浦町の中程山より傍ひてあり

本尊十一面觀世音并ハ菰七觀音の一よりて第五番

目と相傳ふ今浦の漁父京二といひてその靈夢の告

みよりて海中より尊像を求め得たり妙雲院に

安置せりといひ後享保のころ道心者西雲といひる者

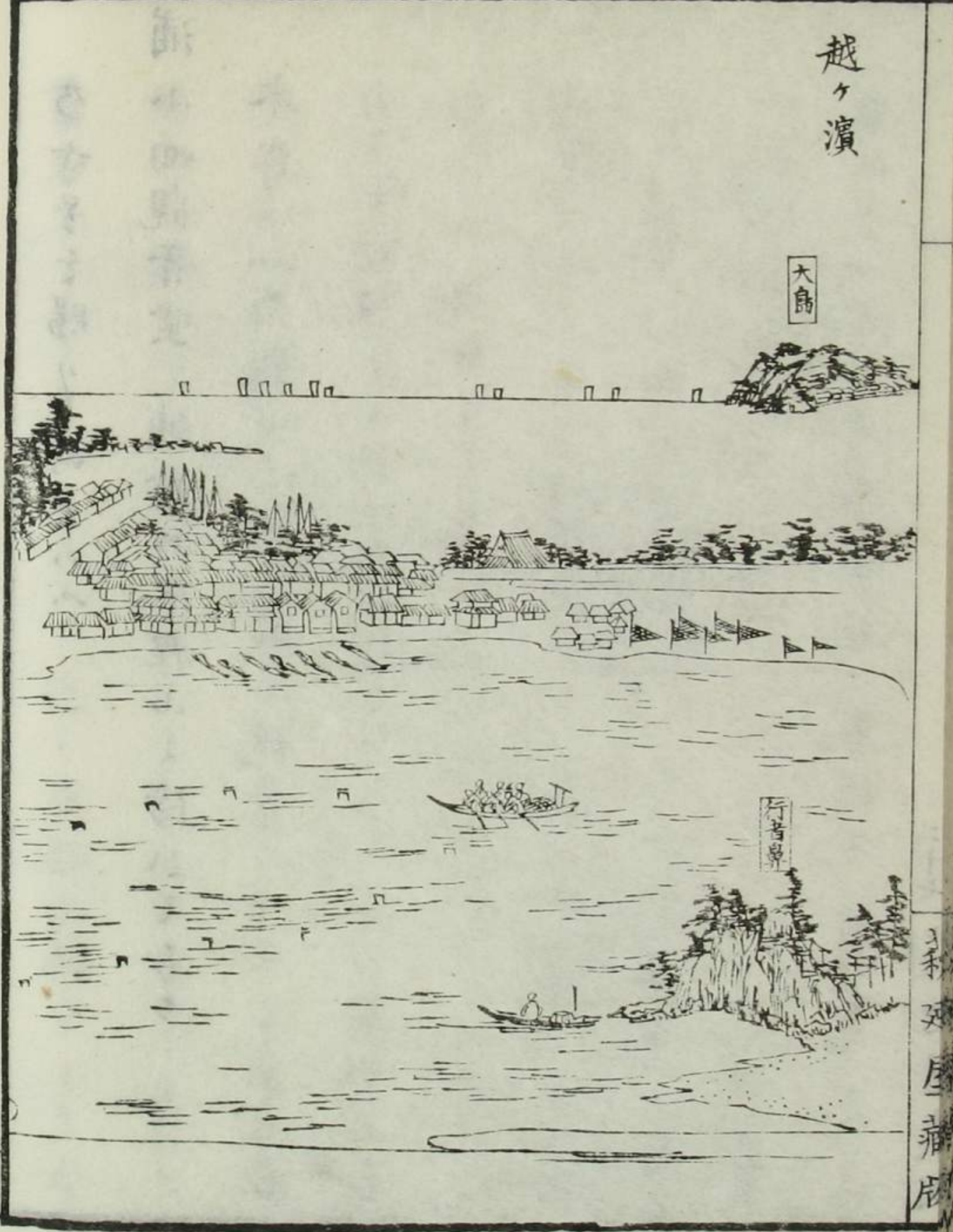
に來り一精舎を建立せんとして日毎に市中より出

一粒錢を乞ひ終に他力を以ておたり十九年の春

當所より一字を建立し彼の尊像を安置せりといふ



二十八
上火
西屋
義反



六

三和
屋
藏
尾

境内に八重櫻の一株を栽ゆ春時爛漫として尤
壯觀なり

越濱明神社

奈古屋島御茶郎の池に臨て有り

祭神ハ藝州嚴島宮に同して市杵島姫を祀り奉る祭
祀ハ七月十七日とす此夜神輿御舟に乗し玉ひ沖中を
廻りて先塩止御門より御船を去りて止めて神
樂の式あり夫より磯邊傳ひ菊ヶ濱御旅所にて神
樂舞を執行す御舟に管絃の御舟を一つて次いでハ
みこみかききの舟或ハ飾り立たる舟幾艘とれり前後

左右に連り萬燈白晝よりも明し拜見羣集して濱
邊狭くともみあへり或ハ賽銭取の聲もハ物鬻みも
の囀り相半して浪風よりも耳ぎハ近う驚く是も亦
賑ハへる風情なるへ

世俗にこの祭を
御管絃とす

縁起に曰當神ハ昔元就公御信心の御神こそ數度
御出馬の御利運もありとるに綱廣公御夢みよりて正
寶九年藝州より御勸請あり玉ひたる所なり

古老吉左衛門と云もの夢みより此山上に一の大きれる
池あり其水底に珠玉三つあり是をとりて明神社瑞津

の宮惠比須社へ納め奉るへいと神告を得たり即て
かの所より探り得て三社へ納め奉まるといふ
此玉の奇偉なるものにして尊くといひ傳ふ
此島のむ
うー奈古
屋某といへる者住
居せしといふ

長越濱在府城北十餘里為北海上第一佳山水也而長主自古置
狙公斂狙數千箇城中人不問四時絡繹遊此蓋長主之園囿而
與民同其樂者也庚申春予有周州之行歸程取道於長城因
與二三子同遊濱上為客路一日之棄嗚呼長子父母之國也
而初予見此濱也生僅三歲之時矣乃今齡已五十有三重過
焉則可無感慨乎因乃卒然賦此詩
無隱禪師

六

我生未辭襁褓裏雙親抱持遊此地而今鬚髮可欺霜重遊恍惚如夢
寐沙頭漁家依然在池邊花木皆長大拍手群猿求食來熟視吾顏
如有怪吾考吾妣棄吾久爾妻爾兒無恙否朝三暮四謹勿怒茅无
多少賦前後更披蒙茸陟崇岡占斷佳興獨彷徨南望月城
長城名
指月城
山蒼翠北眺樂浪水渺茫越王樓臺安在哉畫錦英雄去不回欲求
詩句述懷舊風暗海面暮雨來

八江菰名所圖画六之卷終

